

# 地域ネットワークニュース

～平成30年1月の勉強会のお知らせ & 12月の勉強会報告～

第240回 地域ネットワーク勉強会

## 「事例で学ぶ強度行動障害の理解と支援」

講師：海老原 朱美 氏（臨床発達心理士）  
茨城県発達障害者支援センター

1月31日(水)

午後7時～午後9時

神栖市保健・福祉会館  
2階 研修室

強度行動障害は自傷、他害行為など、危険を伴う行動を頻繁に示すことなどにより、日常生活に困難が生じる状態です。この障害は重度の知的障害を伴う自閉症あるいは自閉症スペクトラムの方に発症する割合が高く、生活環境や周囲の関わり方などが本人に適さない状態が続くことで表出する行動であることが分かっています。

生まれながらにこの状態が見られるわけではなく、基本的には障害者本人が困っているために発生してしまう行動であることから、本人が過ごしやすい生活環境を整えることが最も重要な対処方法となります。

今回の勉強会では、強度行動障害についての基本を理解し、様々な事例を通じて支援の考え方を学ぶ機会とします。放課後等デイサービスや日中一時支援事業、生活介護事業等の障害福祉サービスの担当者をはじめ保育・教育の関係者、ご家族など多くの方の参加をお待ちしています。



※当日は勉強会会場内に情報提供・紹介コーナーを設けています。福祉や医療に関する事業所のパンフレットやチラシ、研修会案内などありましたら是非ご持参下さい。ご参加頂く皆様からの情報をお待ちしています。  
申込・問合せ：神栖市社協 地域福祉推進センター 担当：三浦 電話 0299-93-0294



第239回 地域ネットワーク勉強会報告 平成29年12月12日開催  
＜参加者122名＞

## 発達障害のある子の特性と親支援 ～子どもの不安を和らげる支援のポイント～

講師：子育て科学アクシス 上岡勇二氏（臨床心理士）

発達障害療育者研修スキルアップ講座の1日目と合同で開催した今回の勉強会は、基本的な脳の仕組みと発達障害のある子に安心を与える大切さについて、事例を交えてお話頂きました。

発達障害のある子の特性を一言で表現するならば「不安でいっぱい」なこと。「こわいよお」「やだよ～」といった被害的な発言や、「うっせー」「なんだよ!」といった攻撃的な発言はどちらも不安の強さの表れです。本人は怒りたいのではなく、伝えたいのです。まずは、支援者が本人にとって「耳を貸せる存在」になることが大切です。「この人なら分かってもらえる」「この人といるとこちよいな」という安心感があるからこそ、不安なことや悩みを素直に伝えることができるようになります。

また、できない・やらないの背景には、何を期待されているかわからない、わかっても「やり方」がわからない、やり方がわかっても「やりづらい」ことが隠されているかもしれません。頭ごなしに否定せず、なぜそうなのか、どうすればできるのかといった、本人の言い分や感情に耳を傾け、「なるほど！そうとらえていたのか」と気づくことがとても大切です。